

# 2012年3月期 第2四半期業績概要

2011年 10月28日

アンリツ株式会社  
代表取締役社長 橋本 裕一



東証第1部: 6754  
<http://www.anritsu.com>



**Anritsu** Discover What's Possible™

1

Financial Results FY2011Q2  
Copyright© ANRITSU

## 注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

# 目次

---

1. 事業概要
  2. 2012年3月期第2四半期 連結決算概要
  3. 2012年3月期 通期見通し
-





## 1. 事業概要 - 事業セグメントの呼称と事業内容 -

セグメント	サブセグメント	事業内容			
計測	モバイル市場	LTE、3Gなどの携帯端末、チップセットの開発・製造・保守用テストなど			
	ネットワーク・インフラ市場	光・デジタル・IP通信機器の開発・製造用テスト、有線および無線ネットワークの敷設・保守用テスト、サービスアシュアランスなど			
	エレクトロニクス市場	無線設備、電子部品等の開発・製造用テスト、汎用テストなど			
産業機械		食品・薬品・化粧品用重量選別機、異物検出機、電気機器プリント板向け精密計測など			
情報通信		映像配信機器、通信機器、IPスイッチとその応用システムなど			
その他		光デバイス、物流、厚生サービス、不動産賃貸など			
2011年3月期 売上比率		計測 69%	産業機械 16%	情報 5%	その他 10%
モバイル 約30%	ネットワーク・インフラ 約40%	エレクトロニクス 約30%			

今期から、精密計測事業の区分を「その他」から「産業機械」に変更しています。  
その他は変更ありません。

## 2. 連結決算概要 - ポイント -

### 第1四半期の状況を継続

セグメント	2012年3月期 第2四半期の状況	実績
計測	・スマートフォン製造用計測器のビジネス拡大 ・LTE開発用計測器の需要増大 ・無線インフラ向け建設・保守用計測器が堅調	
産業機械	日本、海外ともに堅調に推移	
情報通信	顧客の投資、当社ビジネスともに前年並み	
その他	前期堅調に推移した映像配信市場向け光デバイスの需要は一巡	

- 第2四半期の業績は、第1四半期に引き続き、
- (1) スマートフォンやタブレット端末に代表される、新携帯端末の開発競争、販売競争で活発な動きを見せる携帯端末製造市場と、
  - (2) 第4世代の新たな超高速モバイル通信方式、LTE方式の研究開発用の需要拡大が、計測事業を引き続き牽引しました。
  - (3) また、当社が強い競争力を持つ無線インフラの建設保守市場向けのハンドヘルド・テスターは、北米、アジアを軸に、世界の全ての地域で順調に推移しました。

産業機械事業は、東北地方の水産業の復興需要や西日本地域での製造能力増加のための投資などに牽引されたほか、北米をはじめとする海外市場でも堅調に推移しました。

## 2. 連結決算概要 - 第2四半期業績サマリー -

### 大幅な増収増益

(単位: 億円)

	前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	359	449	90	25%
売上高	366	446	80	22%
営業利益	28	64	36	127%
経常利益	18	54	36	208%
税引前当期純利益	17	54	37	220%
当期純利益	10	38	28	292%
フリーキャッシュフロー	70	63	△7	△11%

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

主力の計測事業の大幅な増収増益によって、グループ全体としても、営業利益、経常利益、純利益とも、前年同期比で大幅な増益となりました。

増収増益の主な要因は、次の2点が挙げられます。

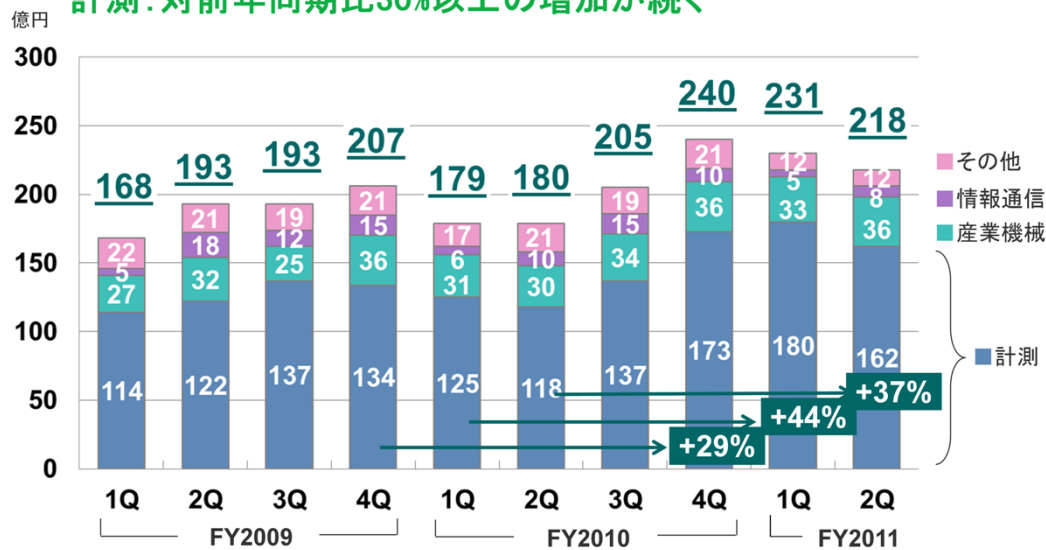
(1) スマートフォン市場の拡大に伴って、携帯端末の製造ライン向けのテスターの受注が、携帯端末メーカー、アジアのEMSから増加したこと、加えて量産効果などによってコストダウンが進みました。

(2) LTEへの旺盛な開発投資を背景に、チップセットの開発用や規格適合試験の計測システム、ネットワークとの相互接続の検証、品質保証する試験システムなどが増加しました。これらの計測ソリューションは、高い信頼性を誇る各種の測定器群と専用のソフトウェア商品群で構成された計測システムを特徴としており、マーケット・リーダーの立場にあります。

以上のとおり、第2四半期においてもさらに円高が進みましたが、競争優位な計測ソリューションが伸張したことにより、売上、利益ともに大幅な上昇となりました。

## 2. 連結決算概要 - 受注高推移 -

計測：対前年同期比30%以上の増加が続く



計測事業の受注高は、前年同四半期の比較で、連続して30%以上の大幅な増加で推移しました。

その主な要因は、

- (1) 堅調な基地局の建設保守分野に加えて、
- (2) LTE関連の研究開発用途や、
- (3) アジアにおける携帯端末の製造市場の設備投資が積極的に行われたことなどによります。

## 2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

### 計測事業がけん引

(単位: 億円)

		前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
計測	売上高	253	340	87	35%
	営業利益	22	64	42	192%
産業機械	売上高	63	72	9	14%
	営業利益	4	3	△1	△22%
情報通信	売上高	10	10	0	△4%
	営業利益	△6	△5	1	-
その他 (含: 内部消去)	売上高	40	24	△16	△39%
	営業利益	8	2	△6	△80%
合計	売上高	366	446	80	22%
	営業利益	28	64	36	127%

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

計測事業は、前年同期比35%の増収となる340億円を達成し、営業利益64億円、営業利益率18.7%の大幅な増益となりました。

この主な要因は、

- (1) 2G、3G、3.5G、LTEの全ての方式にマルチに対応できる、携帯端末の製造用ソリューションが好調に伸びていることと、
- (2) LTEとネットワークの相互接続試験、認証試験を行うコンフォーマンス・テストシステムが好調だったこと、などによります。

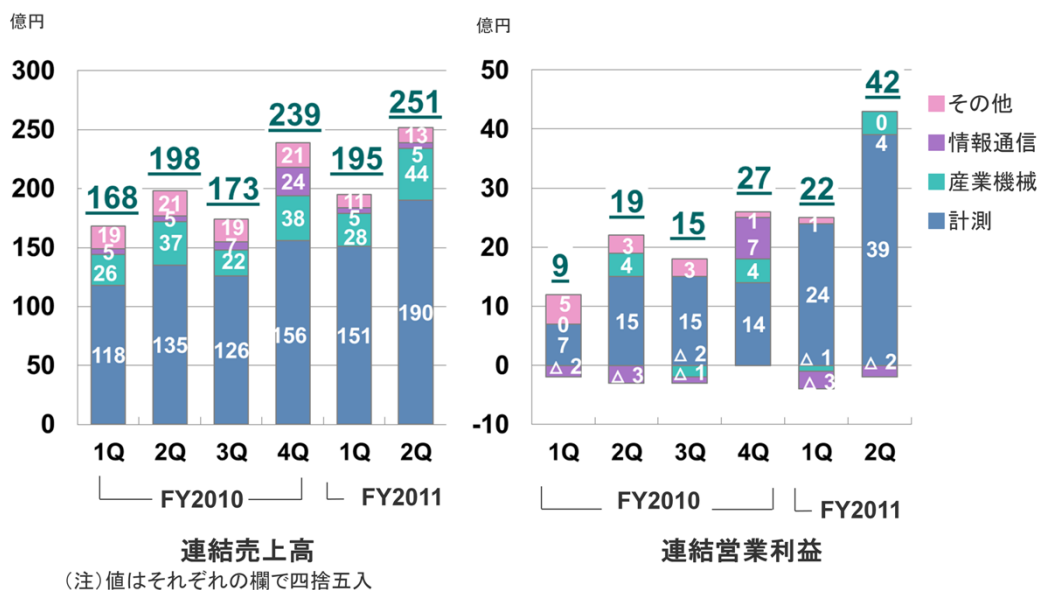
産業機械事業は、食品関連の品質検査需要が日本市場や北米で、堅調に推移していますが、円高による目減りなどもあり減益となりました。なお、当該事業のタイにおける生産子会社は、バンコクの東南約60kmにあるアマタ・ナコーン工業団地にあり、洪水の被害は発生しておりません。

情報通信事業は、前年並みに推移しています。

その他事業は、主に、映像配信市場関連の光デバイス事業の投資が一巡したことに加え、精密計測事業を産業機械セグメントに変更したことにより、減収減益となりました。



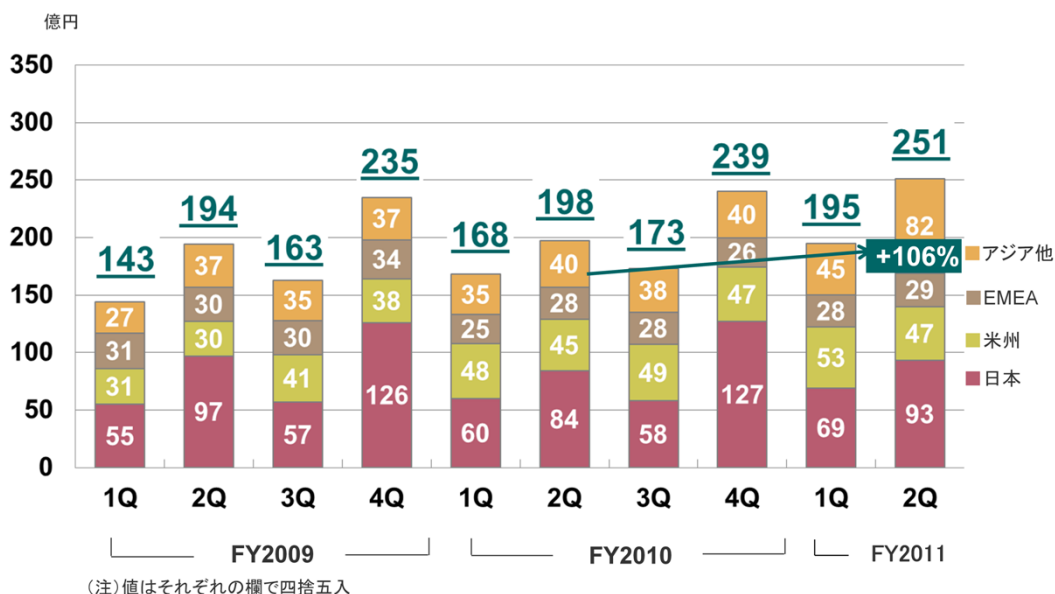
## 2. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業損益 - Q2の連結営業利益率:17%を達成



当第2四半期の連結営業利益率は16.6%、計測事業の営業利益率は20.8%でした。計測事業の営業利益率が改善した主な要因は、LTE方式の開発、商用化のための計測システムの専用ソフトウェアが順調に拡大していることなどによります。

## 2. 連結決算概要 - 地域別売上高推移 -

アジア他: 前年同期の約2倍



Anritsu Discover What's Possible™

10

Financial Results FY2011Q2  
Copyright© ANRITSU

米州は、LTE関連市場で投資が拡大する一方、無線ネットワークの整備や基地局の建設保守などの内需関連市場は安定的に推移しました。

EMEAは、金融不安に伴う顧客の投資抑制等もあり、力強さはないものの前年並みを確保しています。

アジア市場は、第2四半期で前年同期比、約2倍の売上高となる82億円の大増収となりました。携帯端末の製造向けのテスター市場が業績を牽引しています。

日本市場は、モバイル通信の先進市場として、LTEやスマートフォン向けの開発・製造投資やネットワーク建設市場が活発化しています。また、産業機械事業は震災からの復興需要もあり、堅調に推移しています。

## 2. 連結決算概要 - 営業外・特別損益 -

(単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結会計期間 (7-9月)実績
<b>営業利益</b>	<b>2,819</b>	<b>6,393</b>	<b>4,159</b>
金融収支	△ 298	△ 206	△ 107
為替差損益	△ 667	△ 708	△ 543
その他	△ 98	△ 60	△ 70
<b>営業外損益計</b>	<b>△ 1,062</b>	<b>△ 974</b>	<b>△ 720</b>
<b>経常利益</b>	<b>1,757</b>	<b>5,419</b>	<b>3,439</b>
投資有価証券売却益	-	10	10
投資有価証券売却損	-	△ 20	△ 20
投資有価証券評価損	△ 1	-	20
資産除去債務会計基準の 適用に伴う影響額	△ 68	-	-
<b>特別損益計</b>	<b>△ 69</b>	<b>△ 10</b>	<b>10</b>
<b>税引前利益</b>	<b>1,688</b>	<b>5,409</b>	<b>3,449</b>

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

為替換算の想定レートは1 \$ = 80円、1ユーロ = 110円です。  
しかし第2四半期は、その想定をはるかに上回る円高が進行しました。その結果、為替差損7億円が発生しました。

## 2. 連結決算概要 - キャッシュフロー -

内訳

単位: 億円 △減少

### 着実にキャッシュフローを創出

第2四半期

①営業CF: 70億円

②投資CF: △8億円

③財務CF: △11億円

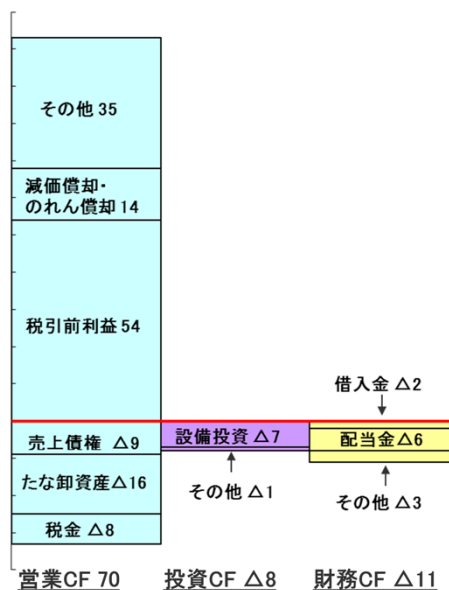
フリーキャッシュフロー

(①+②): 63億円

現金同等物期末残高

326億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



Anritsu Discover What's Possible™

12

Financial Results FY2011Q2  
Copyright© ANRITSU

営業キャッシュフローは70億円の資金獲得となりました。

これの主な要因は、利益の増加によるものです。また、

(1) 東日本大震災に伴って寸断されたサプライ・チェーンへの対策としての部品納期の確保体制、

(2) 受注、売上の急拡大に対応した増産体制

などの機敏な取り組みが功を奏して、棚卸資産の抑制による貢献もありました。

設備投資は計画どおりの進捗です。

その結果、フリー・キャッシュフローは63億円の資金獲得となりました。

### 3. 2012年3月期 通期の見通し(連結) 計測のみ通期上方修正

(単位：億円)

	FY2011			FY2010	
	H1実績	通期 前回予想	通期 今回予想	H1実績	通期実績
売上高	446	865	875	366	779
営業利益	64	110	117	28	70
経常利益	54	100	100	18	54
当期純利益	38	70	70	10	31
計測	売上高	340	630	253	535
	営業利益	64	98	105	22
産業機械	売上高	72	140	63	123
	営業利益	3	7	7	4
情報通信	売上高	10	40	10	41
	営業利益	△5	0	0	△6
その他	売上高	24	55	40	79
	営業利益	2	5	5	8

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(参考) 想定為替レート: 1米ドル=80円

2012/3月期から産業機械事業に、その他セグメントの精密計測事業を統合しています。

1ユーロ=110円

Anritsu Discover What's Possible™

13

Financial Results FY2011Q2  
Copyright© ANRITSU

計測事業が上半期に計画を上回って推移しました。については、その上ぶれた要素を加味して、通期見通しを上方修正します。なお、計測事業以外のセグメントは、期初見込みの通りであり、変更はありません。

計測事業は、

(1) スマートフォン需要の急拡大に伴い、上半期においては、クリスマス商戦向けや製造能力の増強などを目的とした携帯端末ベンダーからの、積極的な投資案件を順調に受注しました。下半期においては、端末製造用テスターの投資は、上半期のような積極的な設備投資動向や大型案件はないものの、研究開発用途に比べて裾野の広いことから、安定的に推移するものと見込んでいます。

(2) また、LTE関連でも、ネットワークとの相互接続試験等の需要が上半期に想定を上回るペースで進捗しました。下半期は堅調なレベルに落ち着くものと見込んでいます。

為替の動向や欧米の景気の減速懸念など、先行きに不透明な要素はあるものの、計測事業の増収増益分を織り込んで、全体としても、売上高、営業利益を上方修正します。なお、主に為替差損を要因とする営業外費用の増加もあり、経常利益は従来通りです。その結果、当期純利益も目標とする70億円に据え置きます。

また、配当金は、従前に発表したとおり、1株あたり、中間配当5円、年間10円の予定です。



東日本大震災からの復旧・復興は、未だに多くの課題を抱えていますが、着実に前進しています。アンリツグループも、被災された地域に拠点を構えるものとして、本業面のみならず、積極的に復興を支援し、社会的責任を果たしていく所存です。

株主・投資家のみなさまのご支援とご協力をお願いして、2012年3月期第2四半期の業績報告とします。